

# デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社



2022年6月期 第3四半期決算説明資料  
(プライム：3916)

2022年5月





1. 2022年6月期 第3四半期決算報告

2. 2022年6月期 連結決算業績予想

3. DITグループの2030年ビジョン及び  
新中期経営計画

4. 参考資料



# 1. 2022年6月期 第3四半期決算報告

# 2022年6月期 第3四半期決算総括（業績）

増収増益、第3四半期累計期間として、過去最高の業績を更新  
（コロナ禍の影響が残る中ではあるが、旺盛な需要を着実に取り込み、力強い伸びを示す）

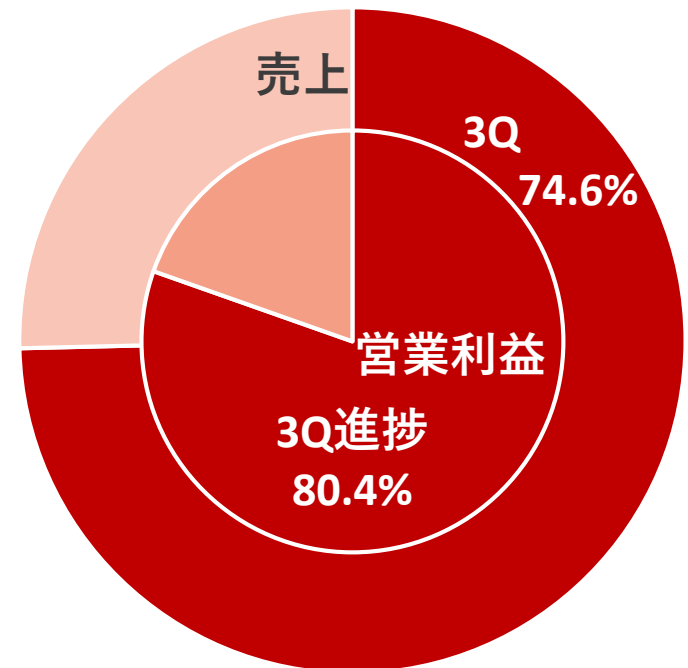
**売上高** : **11,940**百万円  
(前年同期比+10.2%)

**営業利益** : **1,608**百万円  
(同+7.8%)

**営業利益率** : **13.5%**  
(同-0.3Point)

## 通期予想進捗率%

売上高（予）： 16,000百万円  
営業利益（予）： 2,000百万円



# 通期業績予想を上方修正 (ご参照：5月13日リリース)

- 需要が増している医療系システム開発や半導体を含めた自動車関連等  
が大きな伸びを示しており、通期業績予想を上方修正
- 2円増配し、通期で32円（中間15円、期末17円（+2円））を予定

(単位：百万円)	2021/6期 実績	構成 %	2022/6期		構成 %	前期比 増減率
			期初予想	修正予想		
売上高	14,444	100.0%	15,600	16,000	100.0%	+10.8%
営業利益	1,722	11.9%	1,900	2,000	12.5%	+16.1%
経常利益	1,730	12.0%	1,900	2,000	12.5%	+15.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,196	8.3%	1,318	1,387	8.7%	+16.0%
1株当たり 配当金	24円	-	30円	32円	-	+8円

## 2022年6月期 第3四半期決算総括（事業別）

**コア事業のソフトウェア開発事業では、10%超の伸びをみせ好調。医療系や半導体系等の好調が続く**

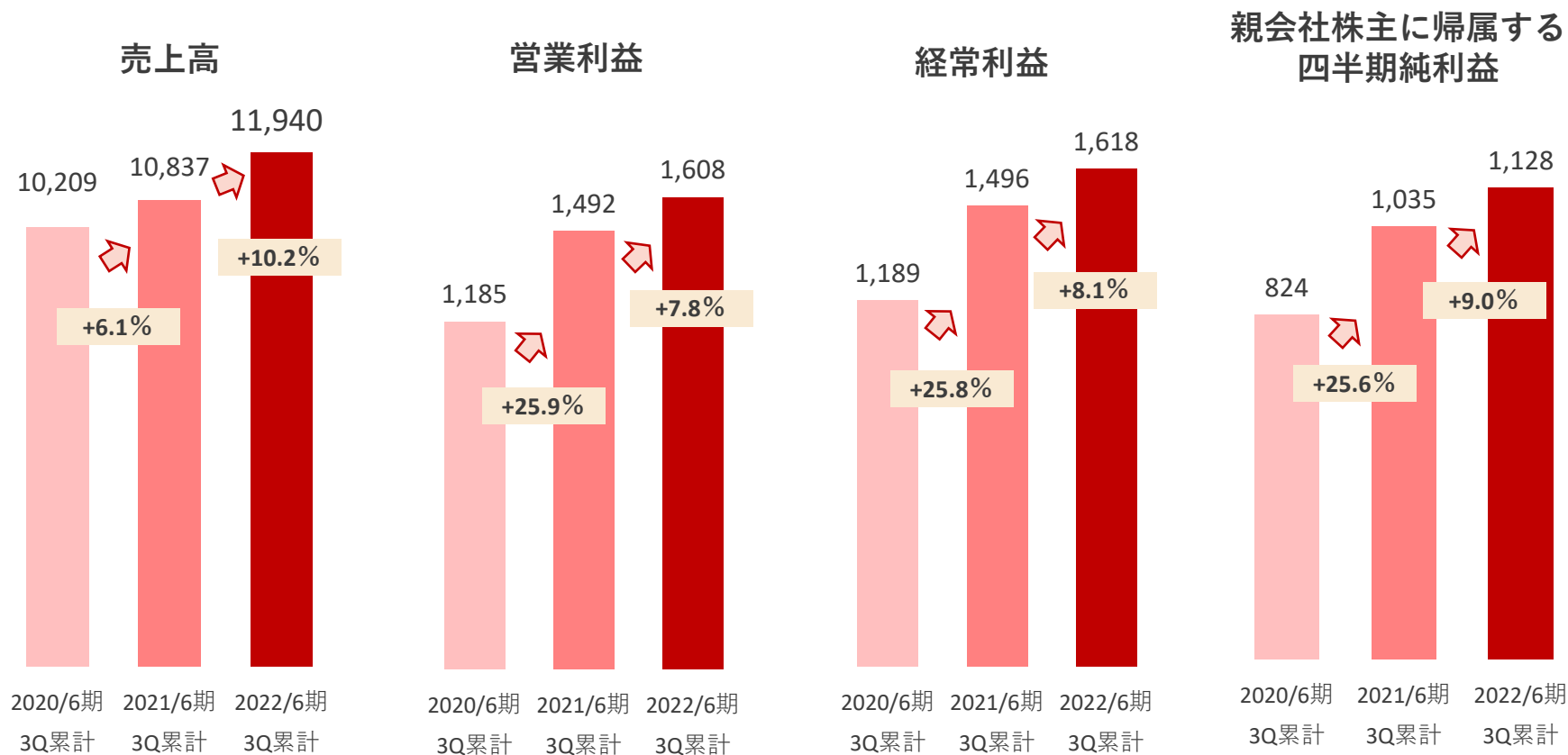
### ■ソフトウェア開発事業(売上高 前年同期比+10.9%)

- ・**ビジネスソリューション事業(前年同期比+10.7%)**は、事業ポートフォリオの見直しが功を奏し、増収増益。今期は主力事業である業務システム開発が大きく伸長し、医療系が大きく伸びたほか、通信、製造、ERP関連の案件獲得も想定以上の伸びとなった。運用サポートは主力顧客の事業改革の影響を一部受けるも、クラウド基盤構築等のニーズを継続して捉え、着実に伸長。
- ・**エンベデッドソリューション事業(同+10.8%)**は、半導体関連が大きく伸びるとともに、検証業務が従前以上に拡大し、増収増益。組込みシステム開発では、IoT関連は横ばいも、主力の自動車関連が踊り場を脱し、前年同期より大幅な増収増益。組込みシステム検証は、車載系の検証の他、5Gや医療系が大きく伸長し、同じく前年同期より大幅な増収増益。
- ・**自社商品事業(同+13.6%)**は、コロナ禍の商談面の制約は続くも、xoBlos、WebARGUSともに順調にライセンスを積み上げ、増収増益。「DD-CONNECT」や「shield cms」といった新たな商品も引き合いが増加しており、引き続き拡販に努める。

■**システム販売事業(売上高 前年同期比-5.3%)**は、対面販売がメインのため新型コロナウイルスの影響が続き減収も、販管費の圧縮により、セグメント利益は前年並みを維持

# 2022年6月期 第3四半期業績ハイライト

売上高、各段階利益ともに過去最高を更新



# 2022年6月期 第3四半期決算概要

- 期末賞与を各四半期で平準化したことに伴い製造原価は増加したが、業容の質的改善が進み、売上総利益率は前年同期を維持
- 売上増により、各段階利益額は前年同期を上回る

(単位：百万円)	2021/6期 3Q実績	構成比 %	2022/6期 3Q実績	構成比 %	前年同期比 増減率	2022/6期 通期計画	進捗率 %
売上高	10,837	100.0%	11,940	100.0%	+10.2%	16,000	74.6%
売上総利益	2,774	25.6%	3,054	25.6%	+10.1%	-	-
販管費	1,282	11.8%	1,446	12.1%	+12.8%	-	-
営業利益	1,492	13.8%	1,608	13.5%	+7.8%	2,000	80.4%
経常利益	1,496	13.8%	1,618	13.6%	+8.1%	2,000	80.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,035	9.6%	1,128	9.4%	+9.0%	1,387	81.3%

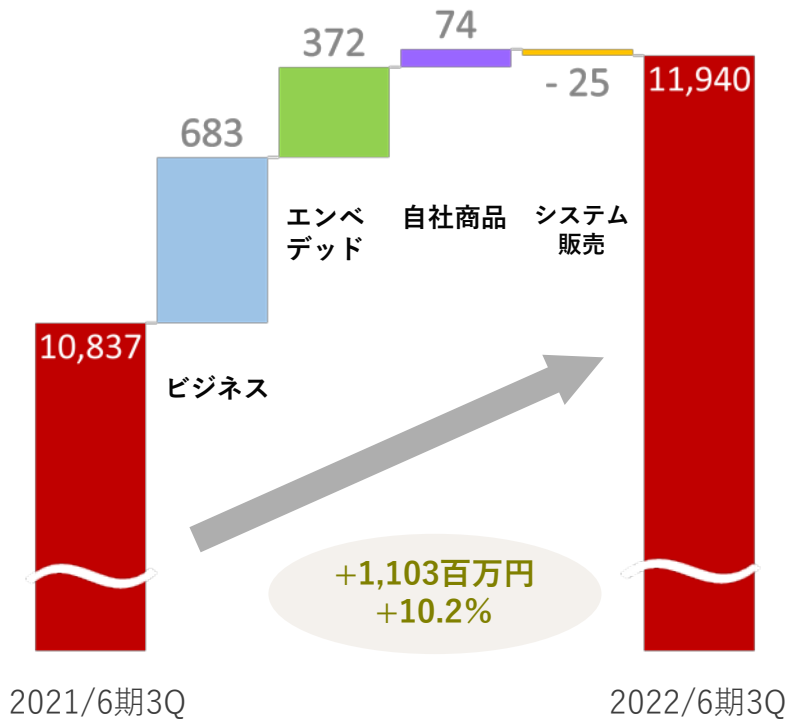


# 売上高、営業利益の増減要因（前期比）

- 売上高はビジネスソリューション事業、エンベデッドソリューション事業共に好調、自社商品事業も着実に伸長
- 事業規模拡大に伴う人件費、採用費の増加以外に前年1Qに租税公課の還付があったことから販管費が1.64億円増加

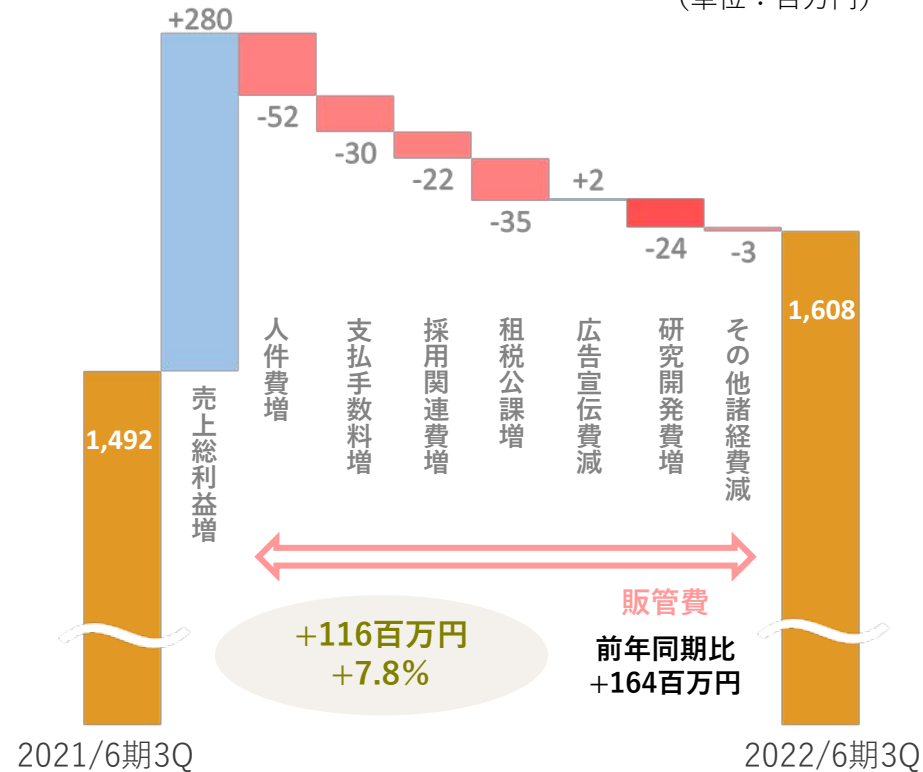
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

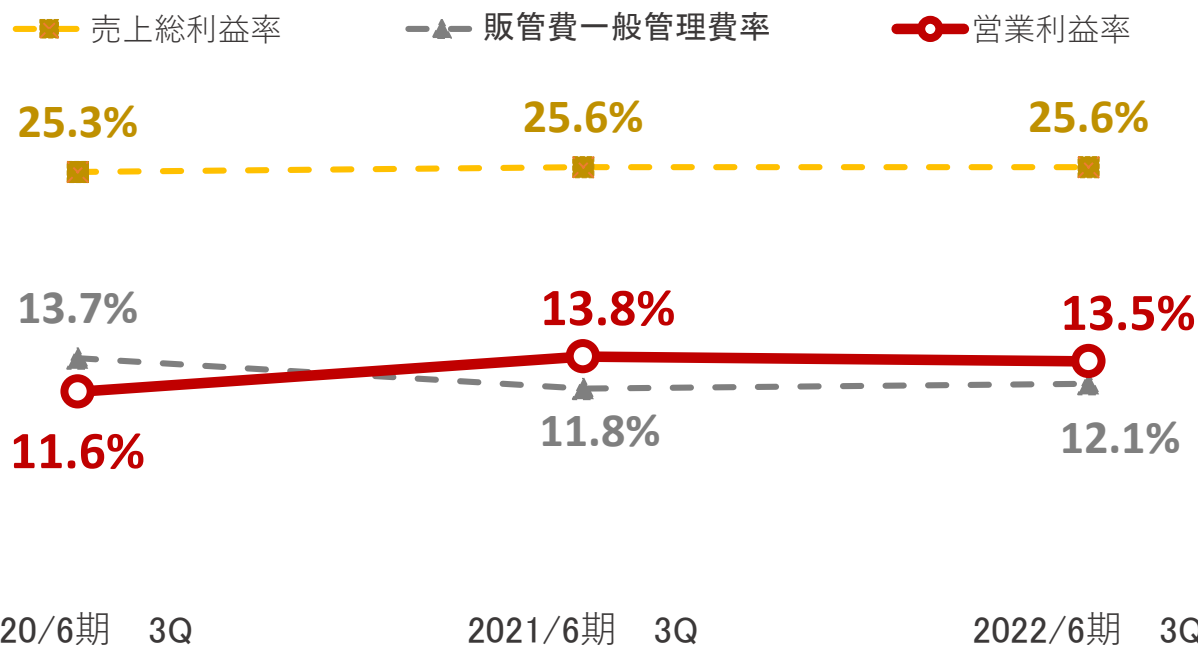
(単位：百万円)



# 営業利益率の推移

- 売上総利益率は前年同期比では横ばいも、第2四半期の25.1%からは上昇基調、過去最高水準の利益率を確保
- 販管費増に伴い営業利益率はわずかに減少（0.3%）したが、高利益率を維持

### 各利益&販売費一般管理費の対売上高比率



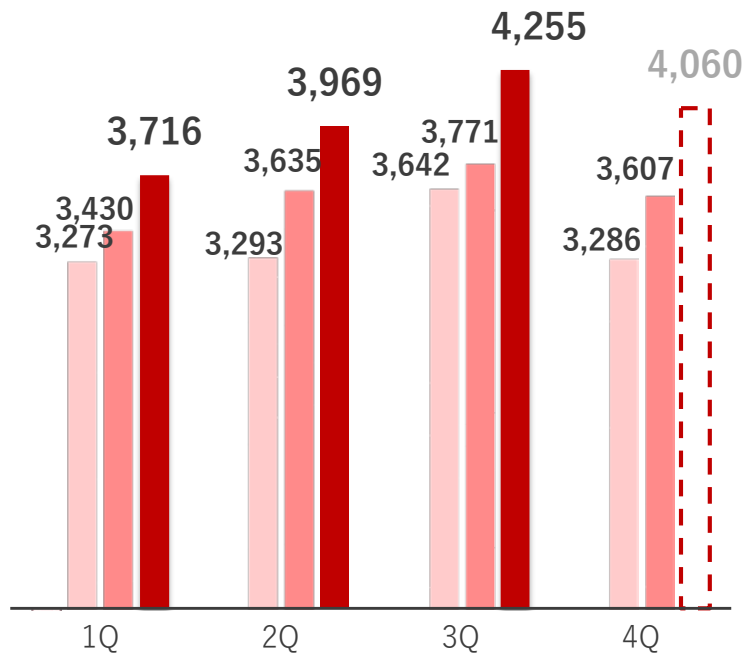
# 四半期会計期間別 売上高 & 営業利益推移

■ 第3四半期会計期間において、過去最高の売上高、営業利益を更新

## 売上高

(単位：百万円)

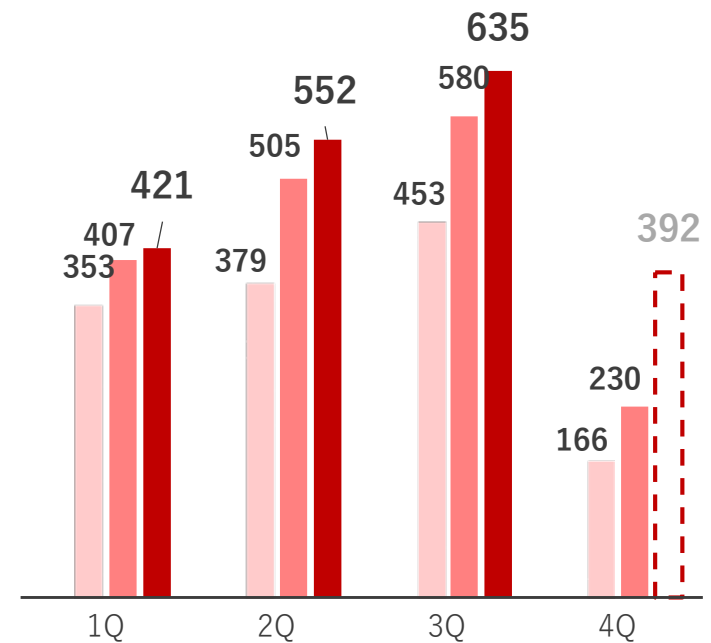
■ 2020/6期 ■ 2021/6期 ■ 2022/6期



## 営業利益

(単位：百万円)

■ 2020/6期 ■ 2021/6期 ■ 2022/6期



\* 営業利益は新入社員の受入れ、期末手当等で第4四半期に減少する季節性がありますが、今期からは給与ベースや賞与支給率を上げることで、減少幅の縮小を図っています。

# 事業領域：各事業の位置づけ



# 事業セグメントと売上構成

- 業務システム開発及び組込みシステム検証が伸張。自社商品事業も5%を超える

事業セグメント	分類	2020/6期3Q累計 売上高 構成比	2021/6期3Q累計 売上高 構成比	2022/6期3Q累計 売上高 構成比
<b>ソフトウェア開発事業</b>		<b>94.1%</b>	<b>95.6%</b>	<b>96.2%</b>
<b>ビジネスソリューション事業</b>	事業 基盤	<b>57.2%</b>	<b>58.7%</b>	<b>59.0%</b>
うち業務システム開発		58.6%	57.1%	60.1%
〃 運用サポート		41.4%	42.9%	39.9%
<b>エンベデッドソリューション事業</b>	事業 基盤	<b>32.4%</b>	<b>31.9%</b>	<b>32.0%</b>
うち組込みシステム開発		78.4%	78.4%	75.6%
〃 組込みシステム検証		21.6%	21.6%	24.4%
<b>自社商品事業</b>	成長 分野	<b>4.5%</b>	<b>5.0%</b>	<b>5.2%</b>
<b>システム販売事業</b>	事業 基盤	<b>5.9%</b>	<b>4.4%</b>	<b>3.8%</b>

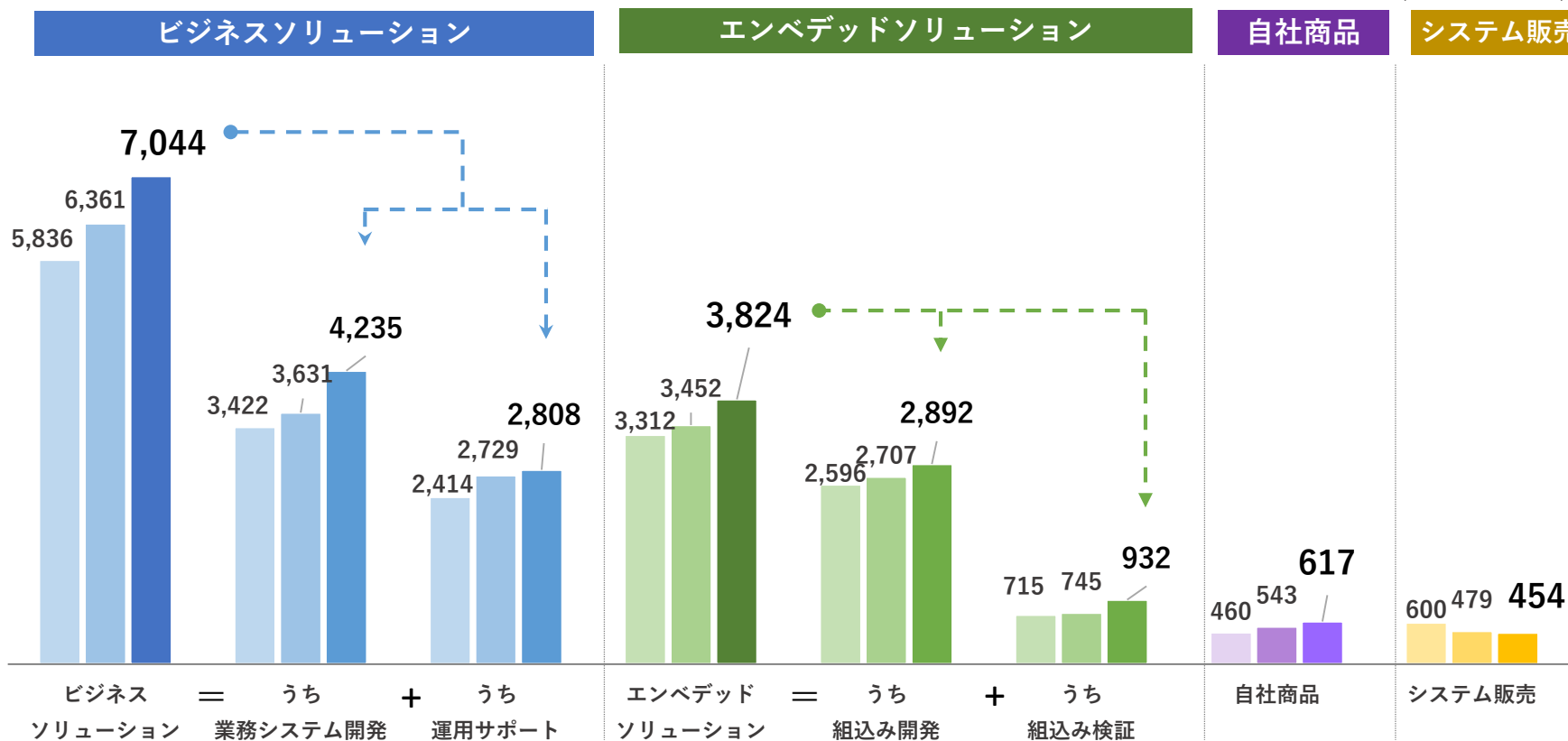
# 事業セグメント別売上高の推移

- ビジネスソリューション、エンベデッドソリューション、自社商品が、10%超前年を上回る
- システム販売事業は、対面営業が主のため、コロナ禍の影響を受け減少

## 事業別売上高の四半期推移

(グラフは左から2020/6期3Q累計、2021/6期3Q累計、2022/6期3Q累計)

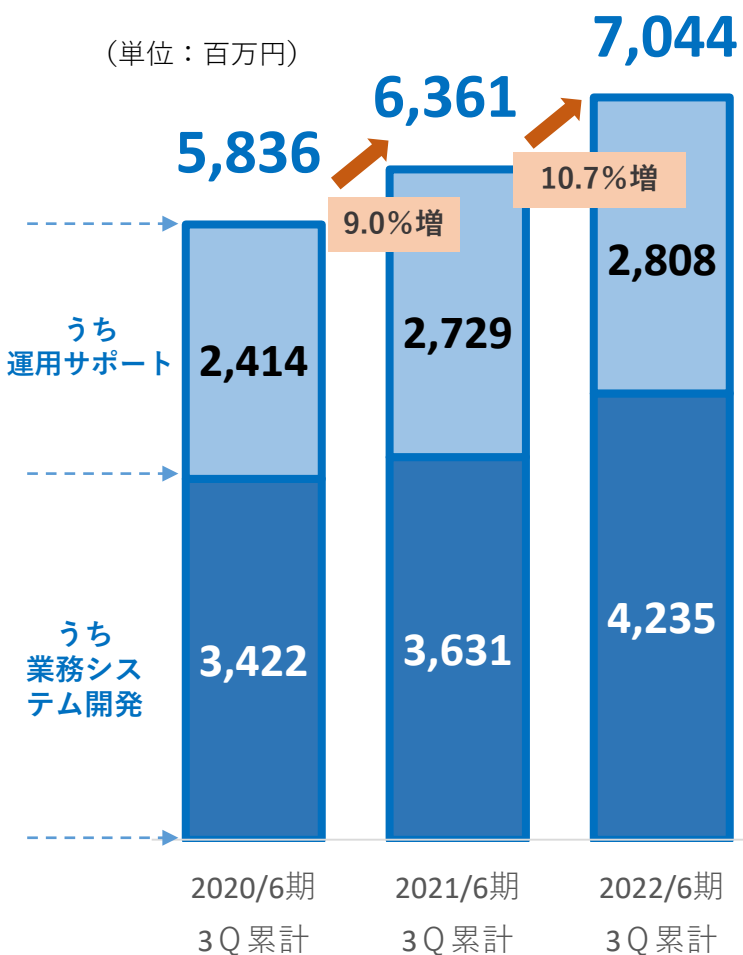
(単位：百万円)



# セグメント別売上高：ビジネスソリューション事業

進捗率74.4%

(単位：百万円)



**売上高：7,044百万円**  
**前期比：+10.7%**

## <事業全体>

事業ポートフォリオ見直しが奏功し、増収増益

### ■業務システム開発■

金融系は人員シフトによりほぼ横ばいも、医療系が大きく伸びた他、通信、製造、ERP関連の案件獲得も想定以上に進捗し、大幅な伸長

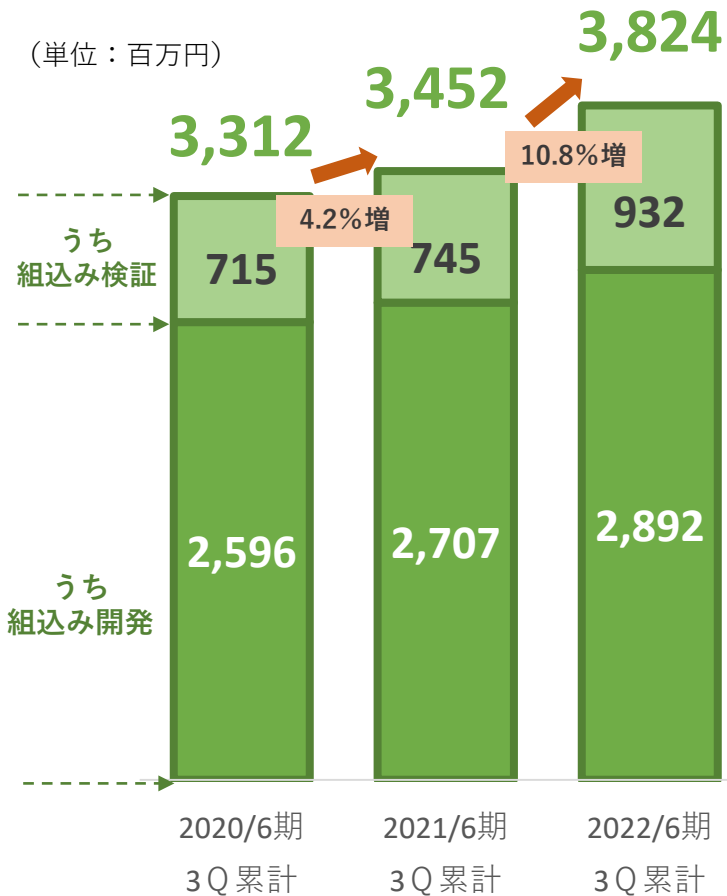
### ■運用サポート■

コロナ禍に伴う主力顧客の事業改革の影響を一部受けるも、クラウド基盤構築等のニーズを捉え、前年同期を上回り、着実に伸長

# セグメント別売上高：エンベデッドソリューション事業

進捗率75.0%

(単位：百万円)



**売上高：3,824百万円**  
**前期比：+10.8%**

## <事業全体>

半導体関連や検証業務の伸び等により、増収増益

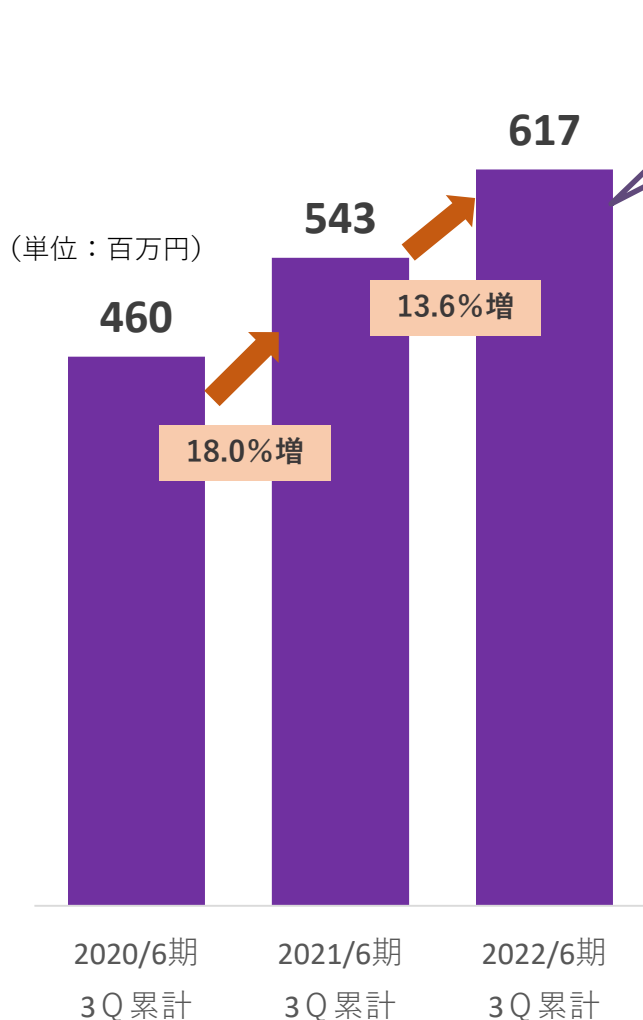
### ■組込み開発■

モバイル・家電系を含むIoT関連は横ばいも、主力の半導体を含む自動車関連が踊り場を脱し、大幅な増収増益

### ■組込み検証■

車載系の検証が大きく伸びたほか、5G（モバイル端末及び基地局）、医療系も大幅に伸長し、売上高では+25.1%と、前年同期より大幅な増収増益





進捗率74.4%

**売上高：617百万円**  
**前期比：+13.6%**

## < 事業全体 >

コロナ禍の影響は残るも、前年を上回る結果を残す

### ■ 【WebARGUS（ウェブアルゴス）：サイバーセキュリティ商品】

ライセンス売上げの積上げにより売上・利益ともに堅調。外部サイバーセキュリティ専門会社との協業も継続。

### ■ 【xoBlos（ゾブロス）：業務効率化商品】

既存顧客内での横展開が広がり、順調に伸展。売上・利益ともに伸長。RPA、ERP等の各種システムとの連携機能拡充など商品力強化が進む。

### ■ 【その他新商品】

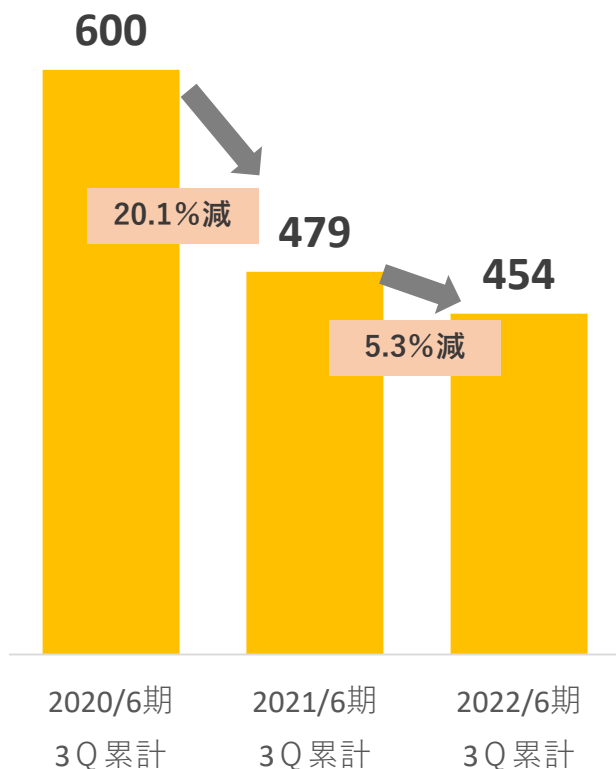
電子契約サービス「DD-CONNECT」は引き合い、新規採用ともに増加。新たな自社商品「shield cms」も代理店開拓が進む。

# セグメント別売上高：システム販売事業

進捗率75.7%

**売上高：454百万円**  
**前期比：-5.3%**

(単位：百万円)



システム販売事業は、コロナ禍の影響を受け、前年を下回る。

- 20/6期から21/6期にかけての軽減税率対応に伴う特需の反動減は一服も、対面営業販売がメインとなる商品のため、コロナ禍の影響を受けやすく、売上は減少。一方で販管費の圧縮努力により、セグメント利益は前年並みを維持

※ システム販売事業は、カシオ計算機株式会社製中小企業向け業務支援及び経営支援の基幹システムである楽一の販売を主としております

# 貸借対照表

## ■無借金経営、自己資本比率73.1%

(単位：百万円)

	2021/6月末	2022/3月末	増減
現金・預金	3,333	3,651	318
売掛金	2,084	—	△2,084
売掛金及び契約資産	—	2,625	2,625
仕掛品	131	68	△63
その他	116	197	81
流動資産 計	5,664	6,541	877
有形固定資産	110	145	35
無形固定資産	15	13	△2
投資その他の資産	598	438	△160
固定資産 計	724	596	△128
資産 合計	6,388	7,138	750

	2021/6月末	2022/3月末	増減
支払手形・買掛金	487	621	134
短期借入金	—	—	—
その他	1,263	1,136	△127
流動負債 計	1,750	1,758	8
長期借入金	—	—	—
その他	111	159	48
固定負債 計	111	159	48
負債 合計	1,861	1,918	57
資本金	453	453	—
資本剰余金	459	459	—
利益剰余金等	3,614	4,307	693
純資産 合計	4,526	5,219	693
負債・純資産 合計	6,388	7,138	750

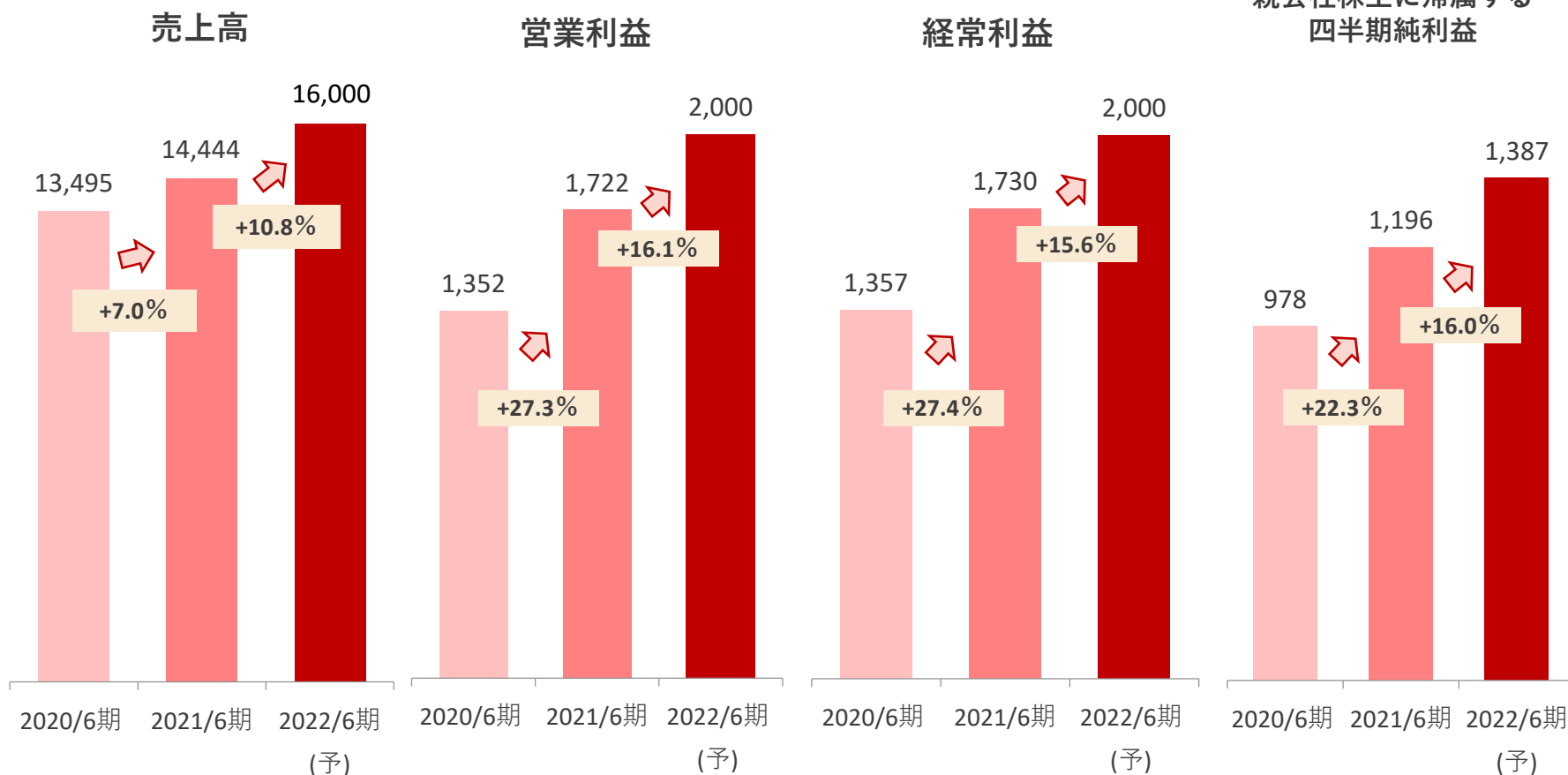
## 2. 2022年6月期 連結決算業績予想



# 2022年6月期 業績予想

## 12期連続の増収・増益を計画

(単位：百万円)  
親会社株主に帰属する  
四半期純利益



# セグメント別 業績予想

- ソフトウェア開発事業は、前期比+11.3%増を計画
- システム販売事業は、コロナ禍の影響から前年並みに修正

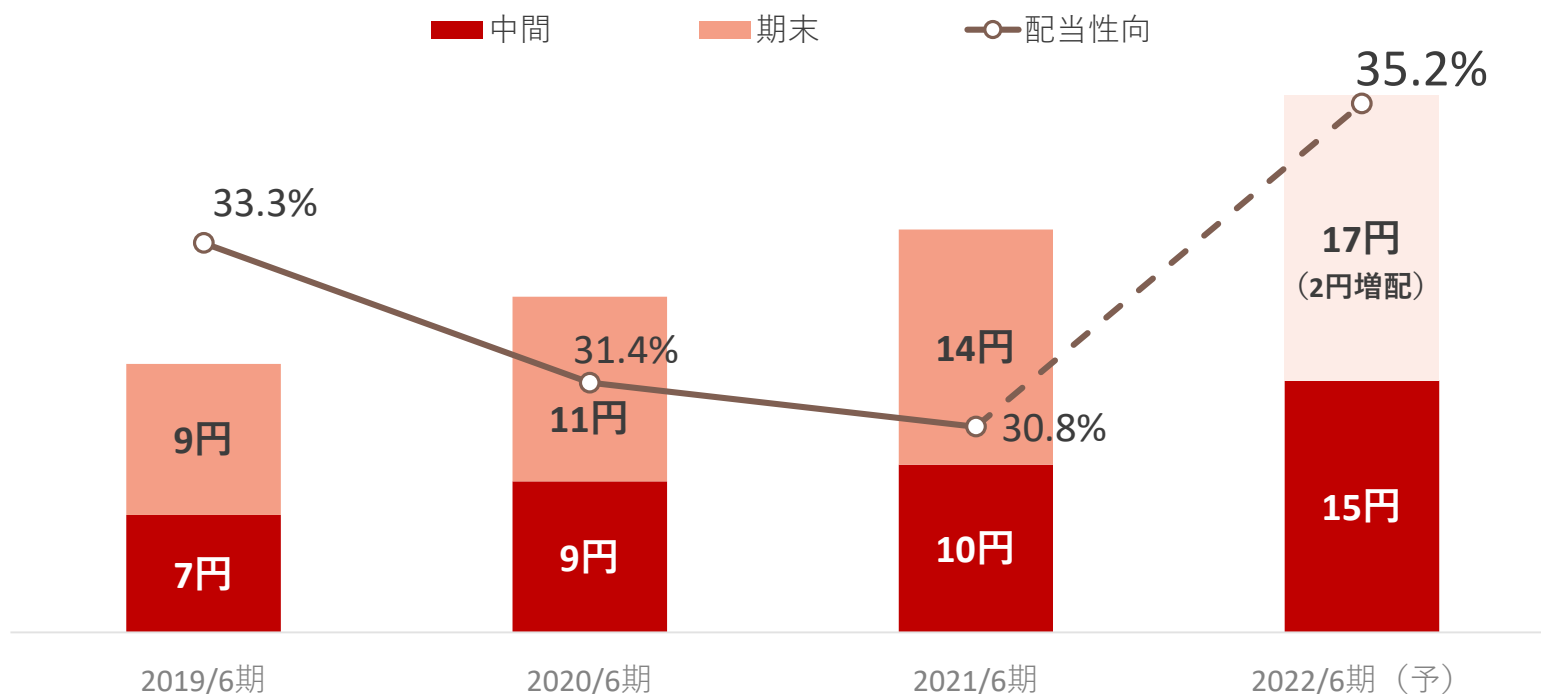
(単位：百万円)

事業セグメント	2021/6期 売上高	2022/6期 売上高予想	増減額	増減%	構成比
ソフトウェア開発事業	13,838	15,400	1,562	11.3%	96.2%
ビジネスソリューション事業	8,604	9,470	866	10.1%	59.2%
エンベデッドソリューション事業	4,522	5,100	578	12.8%	31.9%
自社商品事業	712	830	118	16.6%	5.2%
システム販売事業	605	600	-5	-0.9%	3.8%
合計	14,444	16,000	1,556	10.8%	

# 株主還元（配当予想）

- 中期経営計画にて掲げた目標配当性向は35%以上
- 業績予想の上方修正に伴い、期末の1株当たり配当金を2円増配（15→17円）

## 配当金及び配当性向の推移



・ 配当性向 = 配当支払総額 ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

# 3.DITグループの2030年ビジョン及び 新中期経営計画（2022年6月期～2024年6月期） （21/8/20開示の説明資料より一部を引用）





2030年ビジョン

信頼され、選ばれるDITブランドに向かって

# DIT ブランド

～ Enhance Customer Value! ～

DIT Services ワンランク上の価値提供

+ DIT Spirits

DIT  
Security



安全・堅牢

DIT  
Efficiency



効率向上

DIT  
Support



安心運用

DIT  
Consulting



課題解決・  
提案力

DIT  
Quality



高品質

DIT  
Technologies



高度技術

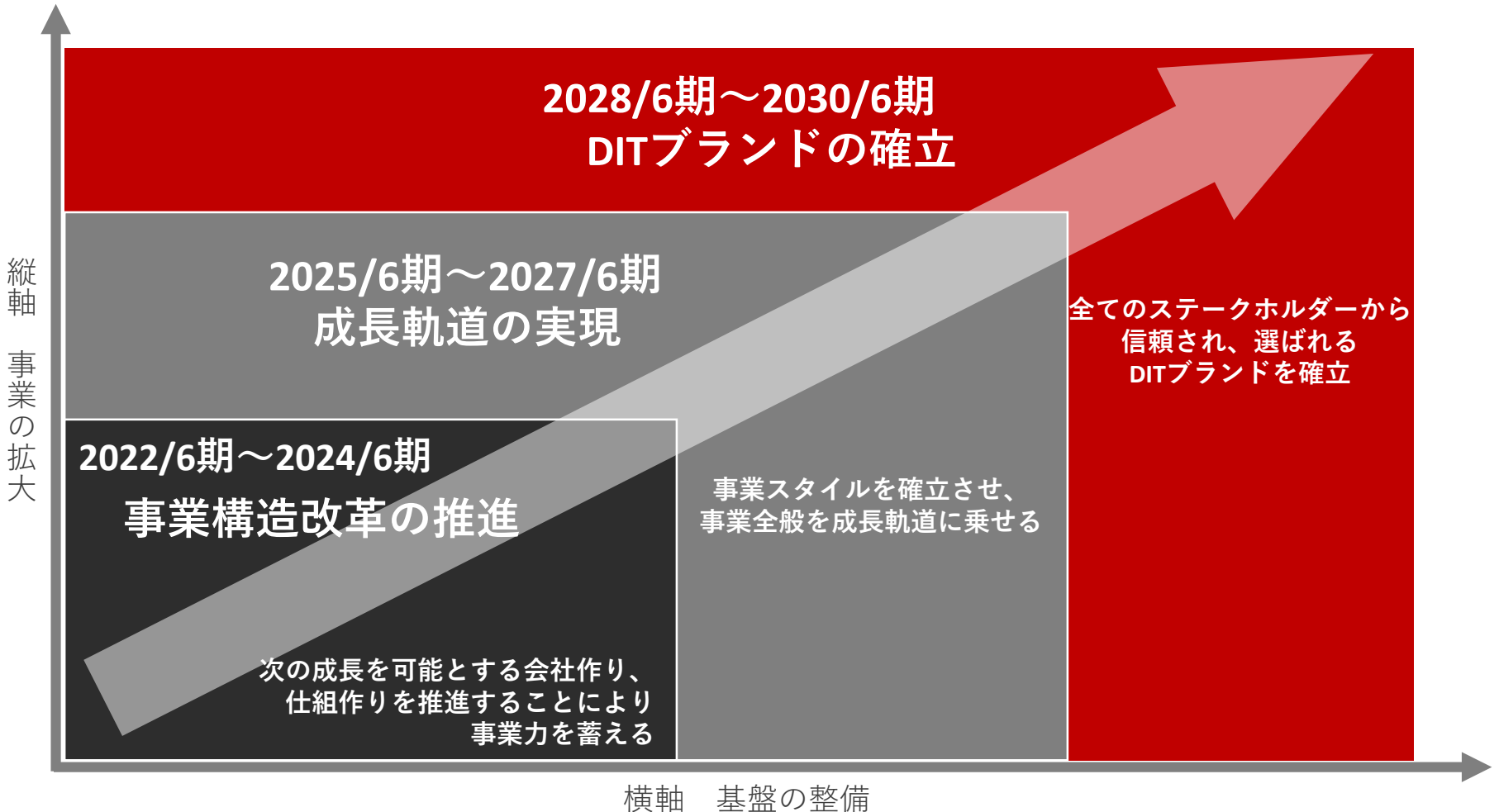


プロフェッショナル集団

# 2030年ビジョンの実現ステップ



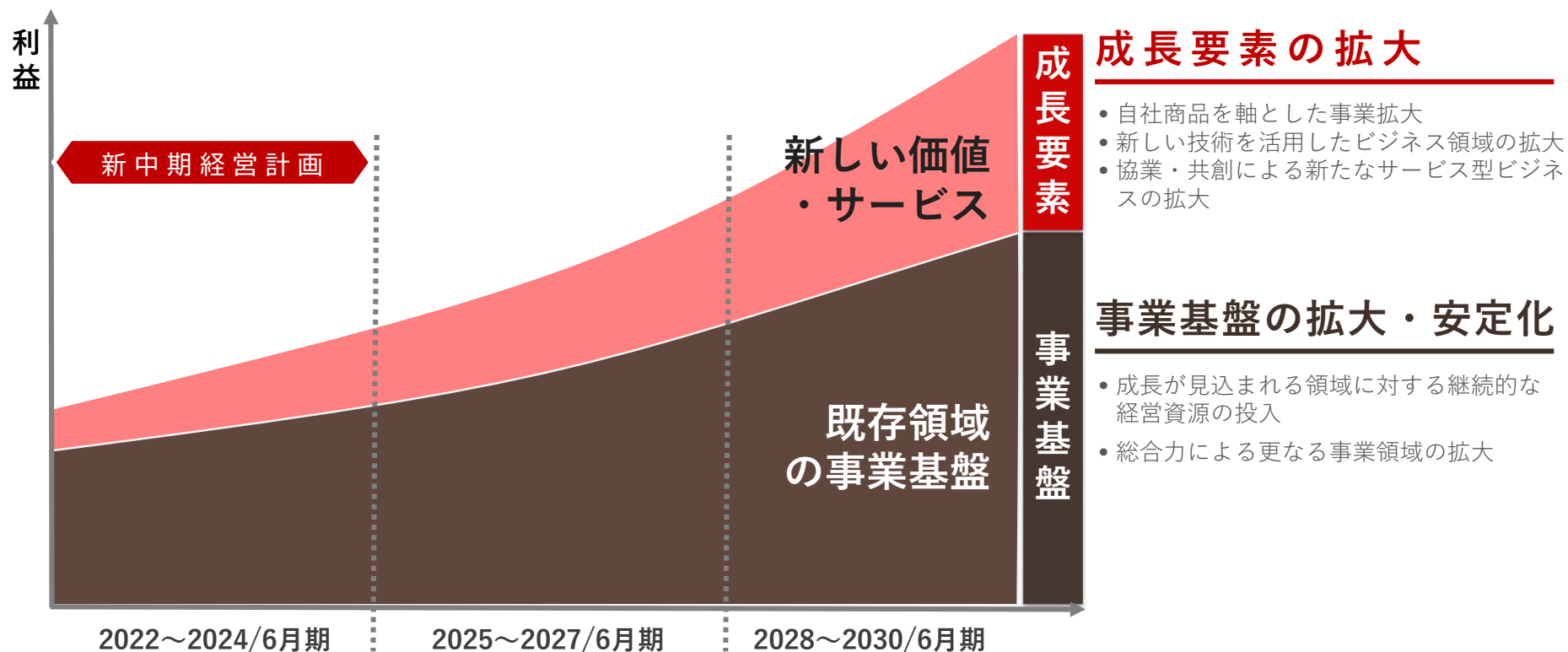
## DIT 2030 Vision



# 中長期成長モデル

■これまでの成長を支えてきた「二軸の事業推進」をより強化し、事業基盤の更なる拡大と新しい価値・サービスの提供を推進していく

1	事業基盤	・・・幅広い事業領域の安定的な取引を強みに更なる基盤拡大
2	成長要素	・・・社会変化に対応した新しい価値・サービスの提供



# 経営目標

売上高 500 億円への挑戦！

<チャレンジ500>

2021/6期 実績

2030/6期 目標

売上高

144 億円

300 億円以上

500 億円

営業利益

17.2 億円

40 億円以上

50 億円

~2021/6期

30% 以上

2022/6期~2030/6期

35% 以上

オーガニックグロース

+新規事業・M&A等

# 中期経営計画の経営目標

## ■オーガニックグロースにおける中期経営目標（22/6期のみ更新）

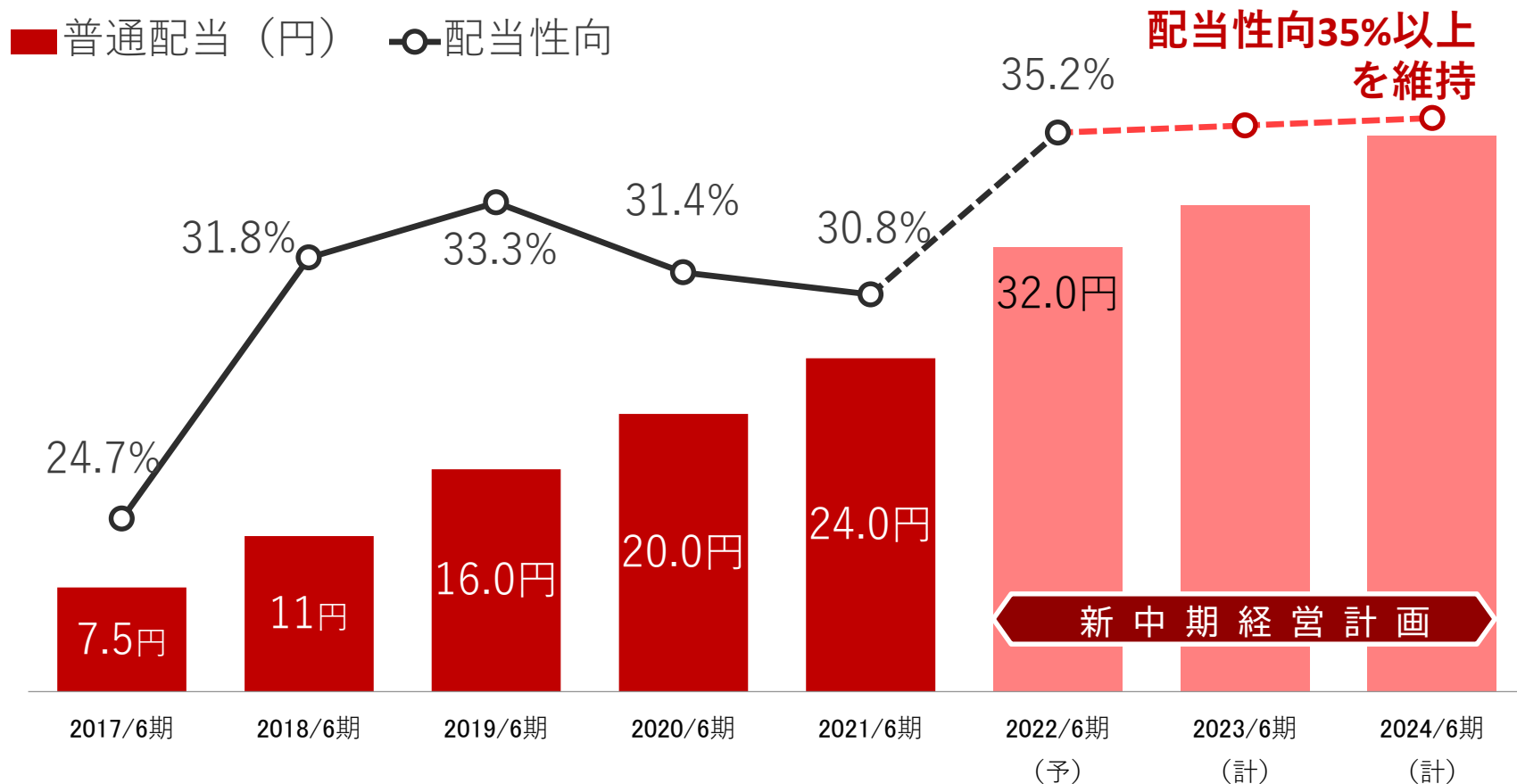
	21/6期（実）	22/6期（予）	23/6期（計）	24/6期（計）
売上高	144億円	160億円	168億円	185億円
営業利益	17.2億円	20.0億円	21.5億円	25.0億円
営業利益率	11.9%	12.5%	12.8%	13.5%
ROE	29.2%	20%以上を維持		
配当性向	30%以上	35%以上		

## ■2022年6月期の配当予想

一株当たり 年間配当額	24.0円	32.0円
----------------	-------	-------

# 中期経営計画の経営目標（配当性向）

■配当性向を現在の30%水準から35%以上へと引き上げ（22/6期のみ更新）



# SDGs：持続可能な社会の実現への貢献

適切な企業経営と顧客への自社商品導入等を通じ、持続可能な社会への貢献に努めます

## 企業経営による貢献



従業員の福利厚生の充実、女性の役職登用等による多様性の推進、ガバナンス等を重視した適切な事業経営により、持続的社會へ貢献

### 関連するSDGsのゴール



## 自社商品導入等による貢献



セキュリティ商品（ウェブアルゴス）や働き方改革関連商品（ゾブロス、DD-CONNECT）等の導入により、快適で安全なインターネット社会の確立や、社会の生産性向上に貢献

### 関連するSDGsのゴール





## 4. 参考資料



# 会社概要

商号: デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社  
Digital Information Technologies Corporation

設立: 2002年1月4日

事業内容: 業務系システム開発、組込系システムの開発及び検証、  
システム運用サービス、自社開発ソフトウェア販売及び  
システム販売事業

本社所在地: 東京都中央区八丁堀4-5-4 FORECAST桜橋5階

資本金: 453,156千円 (2021年6月末)

決算期: 6月30日

従業員数 1,097名(単体1,016名) (2021年6月末)

役員: 代表取締役社長 市川 聡  
他社内取締役 6名、社外取締役 4名  
常勤監査役 1名、社外監査役 2名 (2021年9月末)

グループ会社: DITマーケティングサービス株式会社、DIT America,LLC.



代表取締役社長 市川 聡

2004年3月 当社入社  
2007年7月 執行役員経営企画本部経営企画部長  
2010年7月 執行役員事業本部部長  
2012年9月 取締役執行役員経営企画部長兼商品  
企画開発部長  
2015年7月 常務取締役事業本部部長  
2016年7月 代表取締役専務執行役員  
2018年7月 代表取締役社長

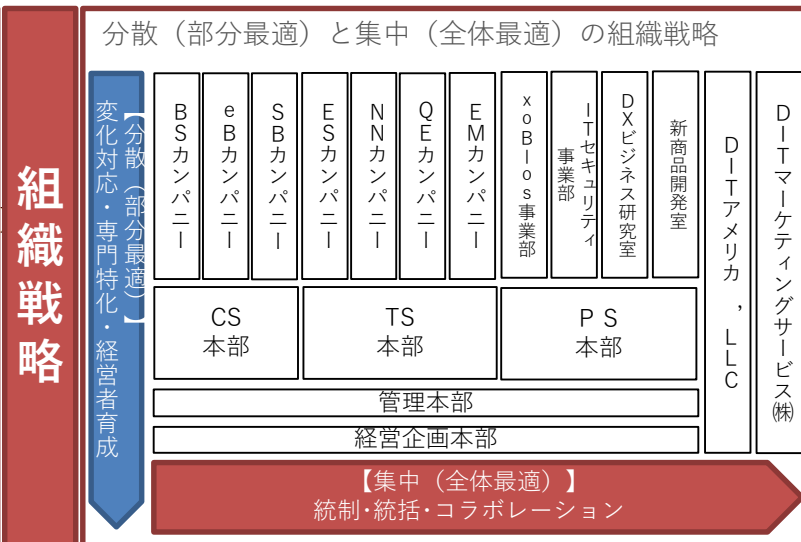
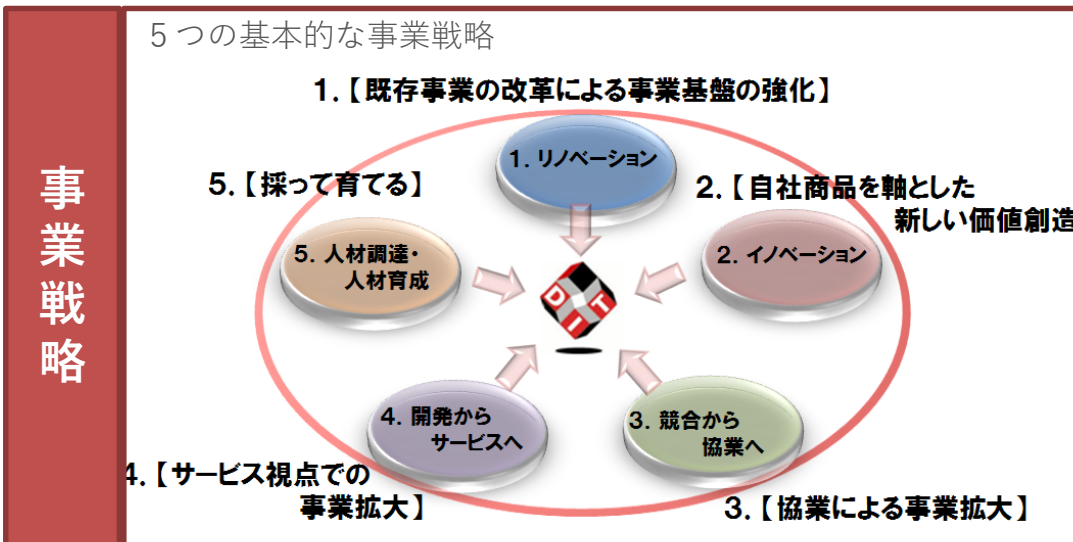
# 国内外の開発拠点と社員数



# 企業理念

企業理念	全体	顧客起点	経営理念	社員の生活を守り、 且つ社会に貢献する
	会社	育成、コミュニケーション		
	個人	付加価値向上、目的目標をもつ、熱い情熱をもつ		

**経営方針** 付加価値の追求と変化対応への取り組みから、  
経営の安定成長を目指す



## JPX日経中小型株指数構成銘柄への選定

---

東京証券取引所及び日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経中小型株指数」の2021年度構成銘柄に継続して選定されました。



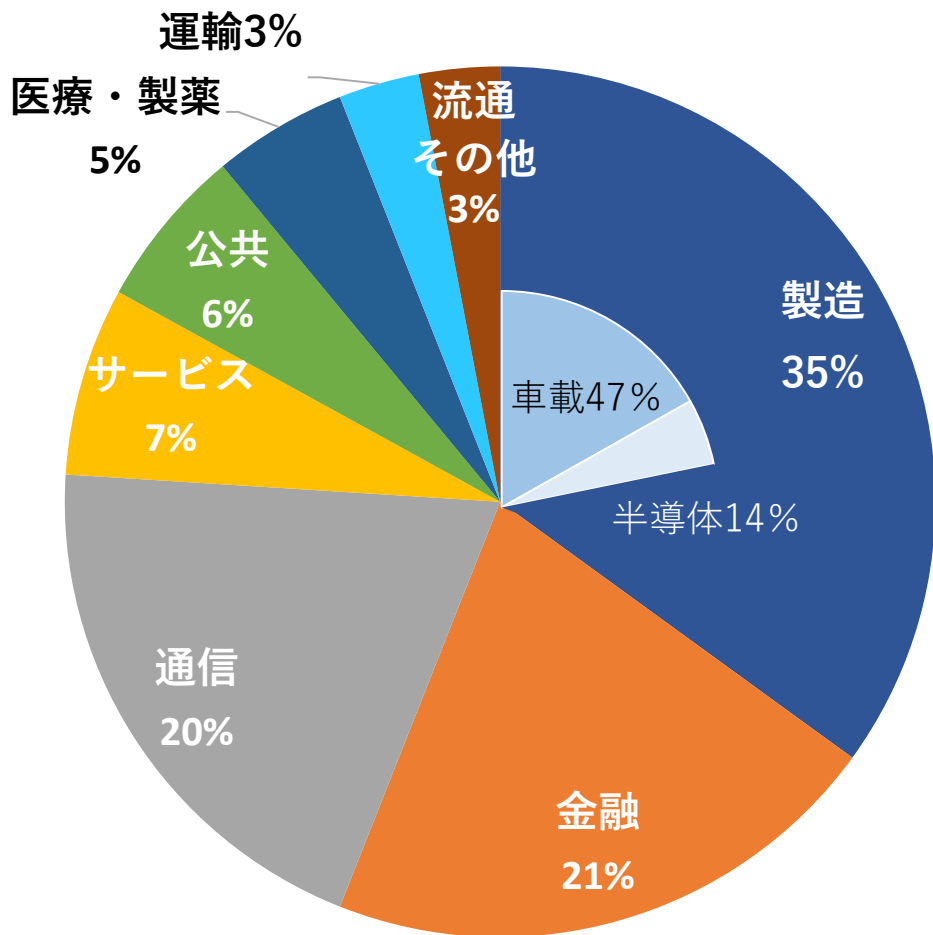
# JPX-NIKKEI Mid Small

今後もステークホルダーの皆様のご期待に添うべく、選定の趣旨に則り、持続的な企業価値の向上と株主を意識した企業経営に努めてまいります。

\*同指数は2021年8月31日から2022年8月30日まで適用

# 顧客基盤

## 業種別の売上高構成比



## ■ D I Tグループの取引先は 約2,800社

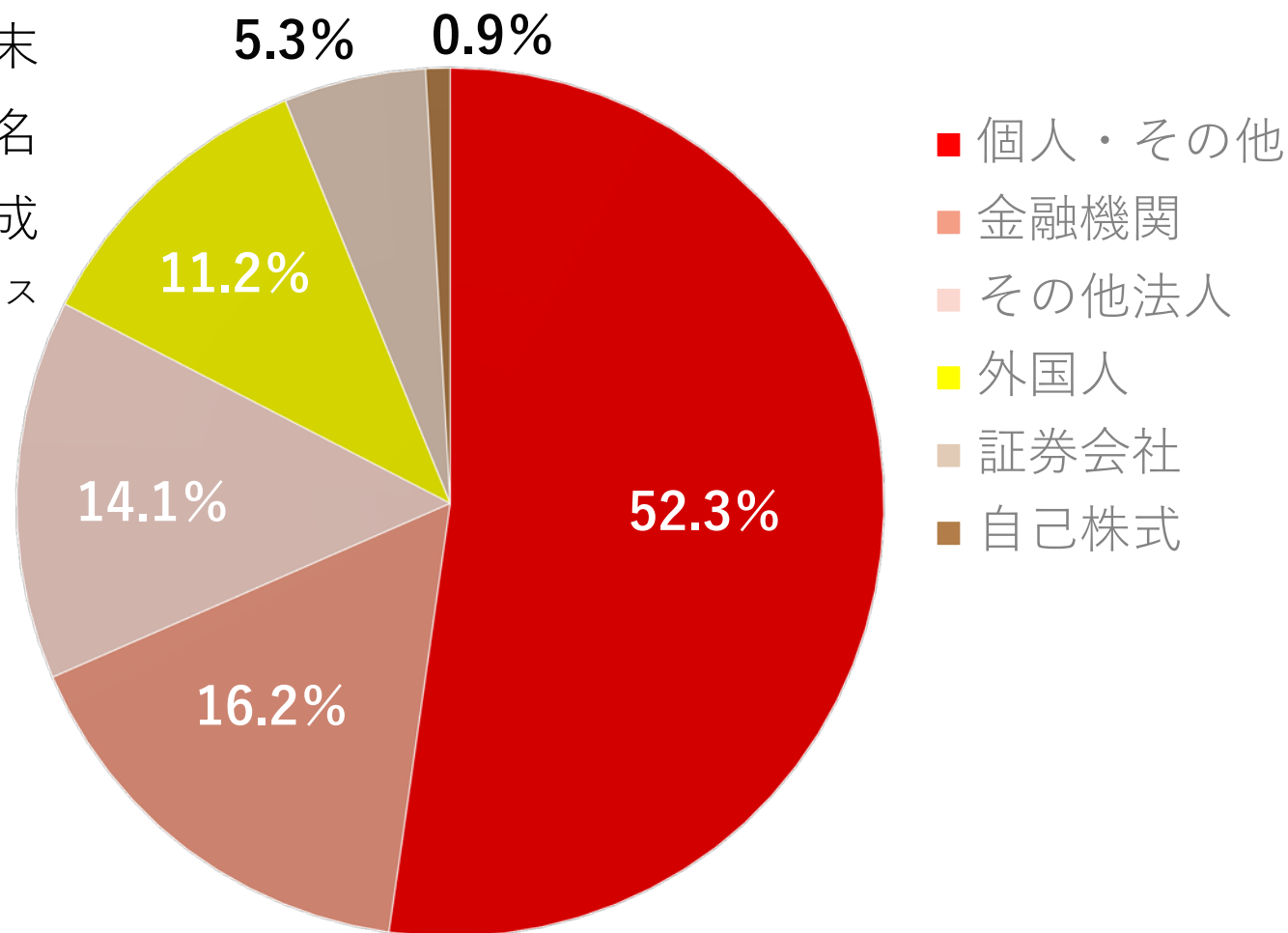
- ・ソフトウェア開発事業は上場企業及びその関連会社、システム販売事業は中小企業が主

## ■ ソフトウェア開発事業の業種別売上高構成（左図）

- ・情報システム子会社を含めたエンドユーザー売上比率は80%

# 株主構成

2021年12月末  
株主数5,767名  
株主構成  
\*グラフは保有数ベース



# 高セキュアなホームページ作成プラットフォーム 「shieldcms」を新発売

## ホームページの「安全性」と「作成の機動性」を兼ね備えた ホームページ作成プラットフォーム「shieldcms」を9月より発売開始

SaaS、オープンソース系のサービスはセキュリティ対策が不十分であることも多く、  
ホームページ改ざんなどのサイバー攻撃に狙われるリスクを抱えやすい

そこで当社オリジナルのセキュリティ商品「WebARGUS」とCMSサービスを組み合わせ、  
サイバー攻撃によるWeb改ざんを瞬間的に復旧できる高セキュリティの**SaaSプラットフォーム**  
を新たに開発し、9月より提供開始。**問い合わせも増加中。**



### 1 改ざんを瞬間復旧 - どこよりもセキュア

改ざんを発生と同時に検知して0.1秒未満で自動復旧可能な唯一の改ざん対策ソフト  
「WebARGUS」を搭載。改ざんの実害をゼロにすることが可能です。





## お問合せ先：

経営企画本部 I R部 榎本 学

TEL: 03-6311-6532 FAX: 03-6311-6521

E-mail: [ir\\_info@ditgroup.jp](mailto:ir_info@ditgroup.jp)

- この資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料において提供される情報は、「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらのリスクは不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。